



スクール「メキシコ2010」

2013年以降の気候変動新枠組み交渉合意に向けたシリーズ勉強会

第3回：SB32 ボン会議を前にポイントまとめ

WWFジャパン 小西雅子（2010年5月開催）

制作：WWFジャパン 気候変動プログラム
2010年2月～2010年12月

<http://www.wwf.or.jp/climate/>
climatechange@wwf.or.jp



WWF for a living planet®

第3回スクール・メキシコ
「32ndSB_10thAWGLCA_12thAWGKP」
WWF ジャパン 小西雅子
2010年5月20日

「SB32 ボン会議を前にポイントまとめ」

小西雅子

1. コペンハーゲン合意の現状

- コペンハーゲン合意とは、先進国と主要な途上国の削減目標/削減行動と、資金援助額などを記載した政治合意。2009 年末コペンハーゲン会議最終局面に集まった 110 カ国以上の首脳の中で、28 カ国の首脳陣だけでドラフト合意を作成したが、UNFCCC 本会議で数カ国が反対し、採択には至らず、留意に留まっている。
- 賛同の表明と削減目標/削減行動の提出は 1 月 31 日締め切り。
- 5 月 10 日現在で、126 カ国が賛同（EU 加盟国 27 カ国を含む）
賛同国の合計排出量は、85.04%を占める。
賛同しないことを表明した国は 5 カ国、合計排出量は 0.58%
（キューバ、クック諸島、エクアドル、クウェイト、ナウル）
（source:USCAN）
- ほとんどの国がすでに発表していた目標/削減行動を記載したのみ。変化したのは以下の国々
 - ・ ロシア：少しだけ目標を上げた。以前発表した目標は、2020 年に 1990 年比で 10%から 25%であったが、CA では、15%から 25%に目標を上げた。森林吸収ルール適用と主要排出国の野心的な約束が条件。
 - ・ カナダ：さらに目標を下げた。KP の目標は 1990 年レベルから 6%減だったが、早々と 2006 年比 20%目標を宣言し、KP 遵守放棄を明らかにしていた。CA ではさらに目標レベルを下げて、2005 年比 17%とした。これは前回の目標よりもさらに 5%下げたことになる。
 - ・ カザフスタン：はじめて目標を発表
 - ・ マーシャル諸島、モルドバ：初めて数値目標を発表
 - ・ アフリカ諸国（エチオピア、ヨルダン、マダガスカル、モロッコ、コンゴ、シエラレオネ）：定性的な目標を発表

(source: USCAN)

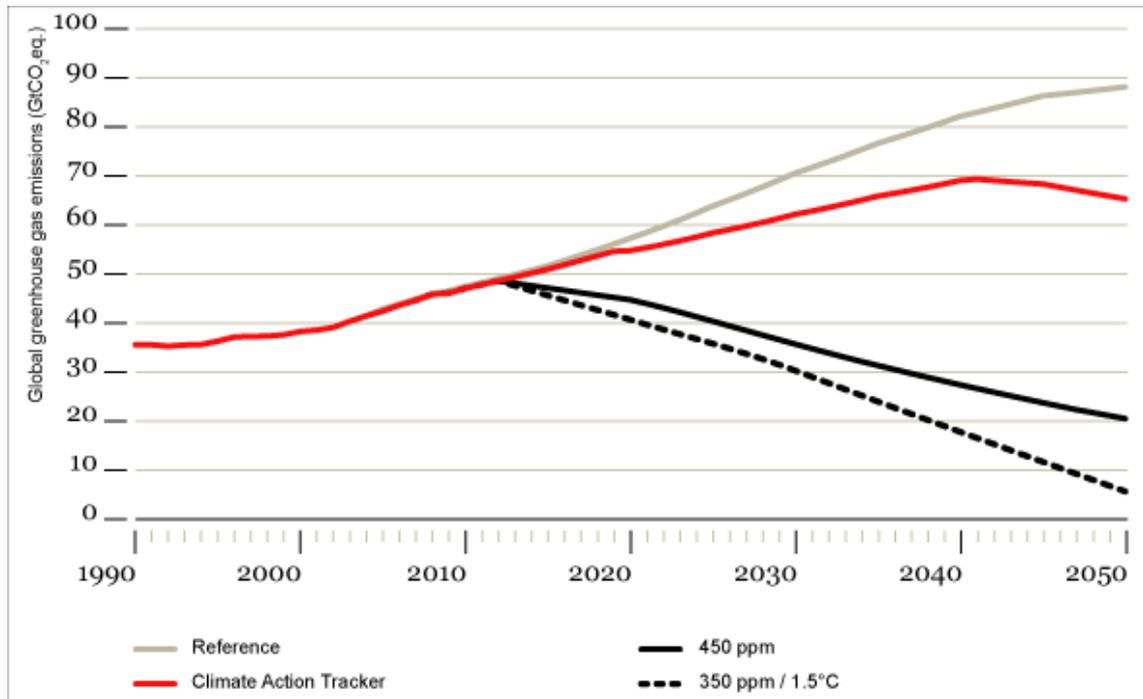
<http://www.usclimatenetwork.org/policy/copenhagen-accord-commitments>



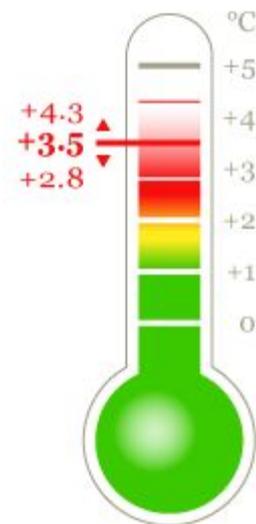
for a living planet®

第3回スクール・メキシコ
「32ndSB_10thAWGLCA_12thAWGKP」
WWF ジャパン 小西雅子
2010年5月20日

- 現在の削減目標の合計は、450ppmの安定化シナリオからは遠く離れる排出予測となる。



- 結果として、平均気温の上昇は、2.8度から4.3度が予測され、最良の予測値は3.5度の上昇となる。CAが謳っている「産業革命前に比べて2度未満を目指す」こととは乖離した目標レベルとなっているのが、現状。



(source:Climate ActionTracker)

<http://www.climateactiontracker.org/>



WWF for a living planet®

第3回スクール・メキシコ
「32ndSB_10thAWGLCA_12thAWGKP」
WWF ジャパン 小西雅子
2010年5月20日

評価：

★ しかし、UNFCCC のイボデブア事務局長が述べるように、UNFCCC 加盟国 194 カ国のうち、約 130 カ国が賛同を表明したことで、CA をベースとして UNFCCC の議論を進めることは理にかなっているといえる。まずは CA のよい目を AWGLCA のテキストに入れ込んで、UNFCCC における議論のベースとし、議論を前進させるコンセンサスをとること

2. UNFCCC の中間会合 (AWGKP11,AWGLCA9) 4 月の結果

- AWGLCA10 と COP16 (メキシコ) の間に、一週間程度の中間会合を 2 回開催することに合意。
- 次回 32SB と、COP16 において、ハイレベル会合を開催することを考慮する
- イボデブア事務局長は、COP16 を前に辞任する。現在次期事務局長を選任中

3. UNFCCC の補助機関会合 (SB23,AWGKP12,AWGLCA10) 5 月 31 日～6 月 11 日 ボン

- ① AWGLCA 議長のシナリオノート FCCC/AWGLCA/2010/5
 - 5 月 4 日までに各国からのサブミッション (FCCC/AWGLCA/2010/MISC.3) を受け付け、仮のロードマップが議長のシナリオノートとして準備された。
 - 「ロードマップは、カンクン COP 16 での採択に向けた結果を出すための交渉プロセスの効果的なマネジメントに貢献するための全体的な方向性を示すこと」という曖昧な方向性で、最終的な結果の法的性質や何を採択する火などについては明言を避けている
 - 一方、2 年にわたって交渉してきたテキストについては、改めて基礎とすることを明言、その上で、テキストの中の実務的な部分に関しては、すぐに実施できる体制に向けて前進させることを提案している。その中心として、適応・緩和・技術移転・キャパビルに対する資金援助の組織構築について、集中して進めることを提案。カンクンは、資金メカなどの前進可能な部分的な交渉合意になることを示唆している。
 - 実施手順について 2010 年中に合意できない場合は、締め切りを入れたタイムラインに合意すること
 - 交渉テキストには、緩和・資金の MRV など根本的な点について、オプションが数多く残る。AWGLCA の役目は、これらについて可



for a living planet®

第3回スクール・メキシコ
「32ndSB_10thAWGLCA_12thAWGKP」
WWF ジャパン 小西雅子
2010年5月20日

能な限り解決するべきであるが、できない場合には、クリアで数を限った政治的な選択肢を残す必要がある。議長国のリードに期待

- 最終的な合意の法的形式と形は、締約国の議論にゆだねる。多くの締約国が、COP16において新たな法的拘束力のある合意に達することを欲する締約国が多かったが、包括的でバランスのとれたCOP決定セットであると見る締約国もある。
- 他の会議の結果を聞く。(ボリビア会議、ピーターズブルグ、メキシコシティなど)
- 一つのコンタクトグループで、質問に導かれるテーマごとの議論をする。議論の進展はノンペーパーへ
- 各会合の前に、議論すべきイシューを議長が提示する。

② 議長テキスト FCCC/AWGLCA/2010/6

- 各国政府は4月26日までに、上記議長テキスト案のためのサブミッションを提出すること FCCC/AWGLCA/2010/MISC.2
- 全体的に今までのテキストを踏襲しているが、主にセクター別アプローチや資金メカの資金源などの技術的な部分を削り、41ページに縮小
- 緩和・適応・技術移転・キャパビルをサポートすべき資金メカは、統合されて、トップの共有ビジョンに入れられており、全体的に統合して議論する意思が見える。
- 肝心の先進国と途上国の削減目標・削減行動については、今までのテキストのまま、25～40や、15～30などをカッコで併記した形を残しただけ
- どこに論点を整理すべきかななどの議長の質問がついており、このAWGLCAテキストを基として最終形に近づけていこうとする意思が見える。
- コペンハーゲンアコードのコアが取り入れられている。(今回の議論のコア)

1) 途上国の削減行動の国別報告書の出し方について = これは、途上国の削減行動のMRVを因る妥協の手法として、CAにはいった手法。先進国からの資金援助によってなされる削減行動についてはもちろん、途上国の国内削減についてのMRV言及もあり(P10) = 今回の議論の中心

2) 資金について、CAに謳われた「コペンハーゲングリーン気候ファンド」の構築について(P13)



WWF for a living planet®

第3回スクール・メキシコ
「32ndSB_10thAWGLCA_12thAWGKP」
WWF ジャパン 小西雅子
2010年5月20日

- 3) 短期資金として約束された USD30B が入っている(P13)
 - 4) 「コペンハーゲングリーン気候ファンド」の特に組織的なアレンジについてのオプションが充実(P14)=ここが議論の中心
 - 5) 途上国の削減行動の登録と、資金とのマッチングシステム構築について (P32)
- なお、2020年1000億ドルの言及はなし。その議論用のオプションもなし（ちなみにアメリカは、この長期資金に関しては AGF の仕事だから AWGLCA で話し合うことではないとしている）

分析

★ CA を高く評価し、AWGLCA テキストベースで行くべきではない（中でもMRVが弱すぎるとする）とするアメリカをはじめとして、日本、EUも120カ国以上が賛同を表明した CA を議長テキストに統合すべきと主張。

★ AOSIS は、今までどおりの主張（1.5度未満、350PPM、先進国2020年に45%以上削減など）

★ ボリビアが主張を先鋭化（1度未満、300PPM、先進国2017年までに50%削減、2040年に100%削減、資金援助はGNPの6%）ガーナも先鋭化

★ COP16において、次期枠組みの合意は困難であるという見解が共有された模様。実質的に進展を確保できるのは、緩和・適応・技術移転・キャパビルのための資金メカ（特に短期資金と資金組織の構築）、削減行動と資金援助双方のMRV指針という認識が示されており、今回の焦点となりそう。

4. その他の注目すべき会合

- ① ハイレベル（環境大臣）クラスのインフォーマル会合の頻繁な開催（5月2日から4日のボン・ピーターズブルグ、5月20日～21日のメキシコなど）
 - 実質的な議論はここで進むのではないか。小沢環境大臣は、10月の生物多様性会議 COP10 において、このハイレベル会合を日本が主催することを表明している。
- ② 国連 MDG 会合 10月 資金メカの話が開発視点で進むだろう
- ③ G20/G8 における資金の進展（SWAP OF FUEL SUBSIDIES, SDR など）
- ④ UNFCCC の新しい事務局長は、Minister Marthinus Van Schalkwyk ではなく、Christina Figueres きて？